

2019年度 教員の自己点検・自己評価報告書

所属学部 学科	職位	氏 名
人間健康学部 人間健康学科	教授	西尾 敦史
最終学歴	学 位	専門分野
筑波大学第二学群比較文化学類	文学士（比較文化学）	地域福祉、地域防災

I 教育活動

○目標・計画

（目標）

地域防災コースの意義を理解し、地域社会と協働した学びのカリキュラムを体系的に構築する。担当する科目をとおして、学生が人間健康に関する理論と実践力を身に付けることができるような、「オンリーワン」の学びの場をつくる。

（計画）

地域防災コースの体系的・段階的な学びのカリキュラムを地域社会と協働で検討・整備し、その主な内容を担当できるよう取り組む。

学生の主体的な学習意欲を喚起するために、実践的かつ双方向的な手法を用いて、学生の能動的な学習を促せるような教育を実践する。また、ゼミ（演習）の学生に対しては、学生の状況を的確に把握し、「オンリーワンを、一人に、ひとつ」確かなものを身に付けられるように、個々の学生に対応した個別的な指導を行う。また、自身のクレド「学びの「ハッピーアワー」をつくる」を実現できるよう学びの場の効果的な創造に取り組み、信頼できる人格の育成を行う。

○担当科目（前期・後期）

（前期）

人間健康特講Ⅰ、人間健康特講Ⅱ、人間健康特講Ⅲ、基礎演習Ⅰ、総合演習Ⅰ、専門演習Ⅰ

（後期）

保健福祉行政論、災害と健康、人間健康特講Ⅳ、基礎演習Ⅱ、総合演習Ⅱ、専門演習Ⅱ

○教育方法の実践

学習者の経験・実践と社会に対する省察とをつなげるための教育方法の試みを取り入れた。考えるための教材として、映像、文学作品、コラム、新聞記事などを活用するとともに、こうした素材を学内LANにおける授業フォルダに置き、また、入手できる場所を案内し、学習者が授業時間以外に参照できるようにした。

講義においては、ワーク課題を提示し、学習者が考えた意見やアイデアを発表・共有する時間をもった。ワーク課題については、出席カードに記載してもらい、学びの進展を把握し、評価、フィールドワークできるようにした。

○作成した教科書・教材

とくになし

○自己評価

演習（ゼミ）授業においては、テーマ（総合演習—「ライフデザイン」）に基づく相互対話学習を行い、ライフイベントをめぐる研究発表、共通図書の見聞を行い、学びを深めることができた。授業（講義）においては、現代社会の新たな課題につながるテーマ（シェア、サードセクター、リスク、コミュニティなど）を取り上げ、多様な地域実践を紹介し、学習者の自らの市民としての生き方、社会との関わり方についての考察につなげる事ができた。

II 研究活動

○研究課題

地域福祉、地域包括ケア、地域共生社会などに関する理論研究、実践研究をすすめる。

○目標・計画

(目標)

地域福祉、地域包括ケア、地域共生社会などに関する研究の領域に、地域防災を加え、コミュニティ・エンパワメント、コミュニティ・デザインなどの手法を取り入れ、研究の領域を広げる。

(計画)

新たな研究領域の開拓については、競争的研究資金を獲得し、地域社会や行政、機関とも連携して、協働研究を推進する。研究の成果については、関連学会での口頭発表、また論文等の形で発表を行う。

○2012年4月から2020年3月の研究業績（特許等を含む）

(著書)

「社会福祉シリーズ 21 相談援助演習 第4版」(共著) 弘文堂 2020年2月15日改訂
集団援助(グループワーク)、地域援助(コミュニティワーク)部分(97-109P)担当

(学術論文)

Legitimate Peripheral Participation (LPP) in Community-based Child-rearing Support Centers (CCSCs): Case studies focusing on developing LPP process through multiple interactions among parents in CCSCs, Japan

IAFOR Journal of Education Volume 8 - Issue 3 Winter 2020

(http://25qt511nswfi49iayd31ch80-wpengine.netdna-ssl.com/wp-content/uploads/papers/iicehawaii2020/IICEHawaii2020_55516.pdf)

(学会発表)

①日本地域福祉学会(岡山倉敷大会)2019年6月8日(土)~9日(日)

ポスター発表

タイトル「地域共生社会と地域資源としての空き家の活用~A県B市におけるコミュニティ・マネジメントに焦点をあてて~」(共同研究・筆頭)

②The IAFOR Hawaii Conference Series 2020 Iafor 教育国際会議(ハワイ・ホノルル)

2020年2021年1月10日~12日 ハワイコンベンションセンター

「生涯学習&遠隔地学習」の研究発表(口頭発表)セッションにおいて、発表およびセッションチェア担当

Legitimate Peripheral Participation (LPP) in Community-based Child-rearing Support Centers (CCSCs): Case studies focusing on developing LPP process through multiple interactions among parents in CCSCs, Japan

(特許)(その他)とくになし

○科学研究費補助金等への申請状況、交付状況(学内外)

なし

○所属学会

日本社会福祉学会、日本福祉社会学会、日本地域福祉学会、日本福祉図書文献学会

○自己評価

地域共生社会に関する課題に関する研究成果のいくつかについて発表の機会を得ることができた。

正統的周辺参加の生涯学習・コミュニティにおける機能についての研究を、地域防災教育、中間

的就労などの領域にも広げてすすめていきたい。

Ⅲ 大学運営

○目標・計画

(目標)

人間健康学部のポリシーの実現に向けて、その教育方針に沿った形での貢献ができるようにする。また、学術情報センターの委員会の役割・職務を担えるように努める。

(計画)

学部運営に貢献できるよう、その役割・職務についてその職責が果たせるように取り組む。また、学術情報センター運営委員会の役割を担うことができるように取り組む。

○学内委員等

学術情報センター運営委員会委員、

○自己評価

学部・学科における教育、運営、学内委員会としての役割を担い、職務を行った。

地域防災コースのカリキュラムの柱として「防災士」資格取得の教育内容の編成、および申請の準備を行い、2020年度からのスタートに向けた態勢を整えた。

Ⅳ 社会貢献

○目標・計画

(目標)

名古屋、愛知の地域社会との連携・協働を深められるように、ネットワークをつくる取り組みを行う。

(計画)

地域福祉、地域防災の領域で協働による研究・実践ができるように、地域福祉学会などとも協力をを行い、研究活動に参加する。

ゼミ（演習）を通して地域貢献ができるよう、地域からの提案協働型活動に参加する。

○学会活動等

日本福祉図書文献学会の役員として、2020年度学会総会の開催に向けた準備を行った。

○地域連携・社会貢献等

愛知・名古屋地域では、地元名東区の防災計画リーダー研修を担当し、連携を深めた。

その他、静岡、神奈川地域の地域福祉関連の研修会・講座・フォーラムなどに関わった。

○自己評価

ゼミ（演習）を通じた地域提案協働型活動は十分に組みこめなかったため、今後の課題としたい。

Ⅴ その他の特記事項（学外研究、受賞歴、国際学術交流、自己研鑽等）

教育・研究・大学運営・社会貢献に力が発揮できるよう、健康の維持管理に努める。

また、自己開発ができるよう、学際的な研究・教育の機会を積極的に利用・活用するよう努める。

Ⅵ 総括

教育、研究、社会活動、大学運営を通して、学習者が人間健康に関する理論と実践力を身に付けることができるような学びの場の創造を試みたが、課題を踏まえて、次年度以降の取り組みにつなげていきたい。

以 上